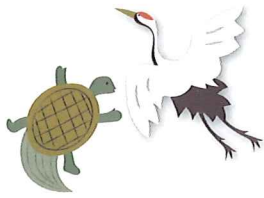


Vol.  47



さと  
やすらぎの郷



野口様とご家族

# 新年の挨拶

園長 野見山 浩志



新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのこととお喜び申し上げます。旧年中は、やすらぎの郷に対しまして、格別のご支援、ご協力を賜り、心から御礼申し上げます。

昨年4月に園長に就任し、9か月が経過し、徐々に事業運営の難しさ、介護情勢の厳しさを実感しているところであります。

先だって、やすらぎの郷の令和2年度事業計画の策定及び予算編成を行いましたでしたが、改めて事業運営の改善の必要性・厳格な財務管理の重要性を鑑み、園長としての責任に身が引き締まる思いであります。

この機会に、次年度の事業計画の中から、いくつか主な取り組みをご紹介します。

第一に、利用者の受入体制拡充の取り組みです。様々な医療ケア（胃ろう、留置カテーテル使用、人工透析、障害など）が必要な方々の受入拡充を図り、幅広く利用者ニーズに対応してまいります。また、それに伴い必要となる診療科を有する医療機関との連携強化を図ってまいります。

第二に、利用者の安全性及びサービス向上の取り組みです。具体的には、高齢者に発生頻度の高い転倒事故を防止するための措置として、利用者の生活空間内の明るさを向上できるLED照明への交換や劣化した床の貼り替えなどを実施いたします。また、家族親睦会やボランティア交流会を通じて、様々なご要望やご意見をいただき、利用者の皆様がより快適に過ごせるよう、サービス向上を図ってまいります。

第三に、介護人材の確保と育成への取り組みです。ご承知のとおり、現在、介護人材の不足は福祉業界でも喫緊の課題となっております。当施設においても、人材確保及び介護職員の処遇改善を図るため、介護職員等特定処遇改善加算の取得（4月予定）準備を進めてまいります。また、職員の育成においても、職員の役割に応じた他施設との短期交流研修やステップアップ・スキルアップ研修など積極的に実施し、質の高い介護サービスをご提供できるように努めてまいります。

さて、今年はいよいよ4年に一度のオリンピックが東京で開催されます。度重なる災害や事故等々で日本を覆っていた暗雲を、一挙に吹き飛ばし、国民の一人一人を“元気”にしてくれる有効なカンフル剤になってくれるものと大きな期待を抱いています。

そう“元気”であること、それは人々を幸せにできるとも大切な魔法のようなものであると私は思っています。

新年を迎えて、やすらぎの郷が、利用者の方々により一層“元気”になれる介護サービスを、自信を持って、力強くご提供してまいりたいと決意を新たにしております。

今後とも、皆様から信頼され愛される施設であり続けるよう、ワンチームとなって鋭意努力してまいりますので、引き続きご支援、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

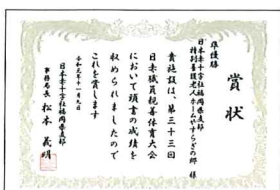
本年が皆様にとって輝かしい一年となりますことを心からご祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。

## 職場トピックス

### 職員功労表彰式

やすらぎの郷が開設して今年の6月で早や24年の年月が経ちます。

日本赤十字社より勤続年数に応じて、職員功労を表彰していますが、昨年は、田邊好美さんが勤続20年、許斐大佑さんが勤続10年の表彰を受けました。



### 日赤職員親善体育大会

昨年の11月9日に、福岡県の日赤施設職員の親善体育大会が開催され、やすらぎの郷が見事準優勝しました。競技がソフトボールだった頃に、2度優勝しましたが、ソフトバレーでは初の快挙です。来年は優勝を目指します!!



# それぞれの物語

Story  
家族インタビュー



野口ハツヨ様のご家族(三女 野口芳子様)にハツヨ様についてお話を伺いました。

## 結婚から家族6人の生活まで

9人兄弟の長女だった母は、18歳で女学校を卒業し、両親が佐世保で営んでいた下宿屋で出会った海軍士官の元平(げんぺい)さんと18歳で結婚しました。当時では、珍しい恋愛結婚だったそうです。母がイケメンだった10歳年上の元平さんに一目ぼれし、長女で勝気なお転婆娘であった母はどうしても結婚したい。しかし元平さんのご両親からは、家柄の違いで2人の結婚を反対されたそうです。元平さんの父親は、学校の先生であり、西南戦争の田原坂の戦いにおいて瀧口隊の小隊長であった野口勝蔵。とても厳しい方だったそうで、下宿屋の娘との結婚が許されるはずもなく、結婚式に、ご両親は出席されず、代わりに祖父母が出席して結婚できたそうです。野口の実家では、お姑さんが厳しく、畳の縁を踏んだだけで定規で足を叩かれるなど、大変な苦勞もあったそうです。その後、夫婦で佐世保で暮らす事になりました。そこでは、軍用犬の「きんごろう」という名前のシェパードを飼っていたらしいのですが、高齢になってから母が急に「きんごろう」というのでびっくりしました。また、父は海軍士官としてあちこちと外国に行ったら、お土産を買ってきてくれたそうで、「お土産にもらったのよ」とアメジストの指輪を母は大事にしていました。結婚後も母は仕事をしたかったのですが、父から「女は仕事せんでいい」と言われていた為、内緒で佐世保の呉服売り場に働きに出たそうです。が、すぐにみつきり連れ戻されて叱られたそうです。



しばらくして長女が産まれましたが、戦時中で空襲もあり、父は戦地ですから、母は生まれたばかりの娘を抱いて何度も走って逃げたそうです。原爆のきこ雲も見たのかも知れません。

潜水艦士官で、内地で捕虜になっていた父が、終戦後帰還し、家

族で福岡へ移り住みました。色々あって、父が勤める運送屋の社宅での生活が始まり、最終的には1男4女の子宝に恵まれ、にぎやかな生活でした。ただ、家族も多かった為、貧しい時期もありました。和裁が得意な母は、子供たちの洋服を手作りし、生活費のために嫁入りの時に着ていた着物などを質屋に入れるなど、陰ながら家族を支えていました。母は良い恋をして厳しい状況をふたりで乗り越えたように思います。



## 家族介護の日々

平成15年に、長男が癌で亡くなり、母は大変ショックを受け、その頃からうつ状態になりました。

それが原因かかもしれませんが、後にアルツハイマー型認知症と診断されました。またその頃、足の痛みの訴えがあり、いくつか病院を受診しましたが痛みは改善しません。そんな折に、当時のケアマネさんより仕事上の私に「お母さん足の骨が折れてます」と連絡があり、救急車で病院へ搬送、詳しく検査をした結果、股関節骨折との診断ですぐ手術になりました。同時期、父(元平さん)も脳内出血で同じ病院に入院していましたが、父は別の病院に転院になり、二人別々の病院での入院になり大変でした。

リハビリ目的で、別の病院に転院する日。看護師さんが車椅子へ移乗させた時に母が転落し、母は痛みを訴えていましたが、「今日退院だから」と診察をするでもなく退院させられました。転院先の病院で、転落と痛みのことを説明しましたが、しばらく様子をみますとと言われ、数日後の検査で左の大腿骨の骨折が分かりました。再び、元の病院に戻り、手術になりました。未だにあの時の悔しさは忘れられません。

一月経つとまた追い出されるように退院の話が…。



考える間もありませんでした。そんな時姪っ子から自分が勤めている病院に来ないかという連絡があり、その病院へ転院しました。そこで、一年ほど入院し、リハビリを続け歩けるまで回復しました。病院を退院し家に戻った母ですが、もともと面倒くさがりの性格だった為、楽をしようと「足が痛い」「つかれた」等と言ってあまり積極的に歩こうとしませんでした。歩き続けてほしかった私は、本人を叱咤しましたが、他の人から見たら私は鬼に見えただろうと思います。それから父が他界しました。認知機能が低下していた母は、他界したことがピンとこなかったようですが、後々、遺影の写真を破ったり「げんべいの馬鹿」「私も連れてって」等と叫んでいました。

その頃は、まだ調理をする機会もあったのですが、鍋を焦がすことが増えて無理になりました。私は仕事をしていたので、様々な介護サービスを利用しました。デイサービスやホームヘルパー、また在宅が難しい期間は老人保健施設への入所。退所してまた在宅サービスの再開。介護保険の限度額を超えていたので自費でのサービスも利用していました。



やすらぎの郷入所の前は、小規模多機能施設を利用し始めたばかりで、そこはすごくアットホームな感じで運動もしてく

れるし、私としてはもう少し在宅で頑張ろうとも思っていたのですが、やすらぎの郷の入所の話があった時に、周りが「この機会を逃したらいつ入所できるか分からないよ」「自分の人生も考えたら…」などの声があり、日本赤十字社だし歴史もあるから大丈夫だろうと、入所を決めました。

### やすらぎの郷への入所

介護の経験をしてきたから大変さは分かってるし、職員のみなさんは良い方ばかりでしっかりと見てくれているので安心して預けられます。元気な頃にやすらぎの郷で過ごせたらもっと楽しかっただろうと思います。

父が亡くなったときに母が言った言葉が面白かったです。父は93歳になる2日前に亡くなったのですが、そしたら母は「私は爺さんよりも1日も長く生きてやるけん」と言っていました。おかげで母は現在98歳です。これから寒くなるから、風邪、肺炎にならないか不安だけど、まだまだ元気で100歳を目指してほしいです。

### インタビューを終えて

この度、三女さんからお話を聞かせていただき、大変だった時期を、悩み、考え、一つ一つ乗り越えながら、介護してきたご家族の思いが、強く心に響きました。どんな思いで施設に預けているのかは、人様々だとは思いますが、その思いを引き継ぎ、ご家族の代わりとなって、お一人お一人に向き合い、入所されている方が健康で穏やかに安楽に過ごせる様、これからも支援していきたいと改めて感じました。



## 看取り介護について



31年間の「平成」の世から新たに「令和」の時代に突入した2019年。特別養護老人ホームやすらぎの郷でも、「看取り介護」という新たな事業が始まりました。

以前から、「本人が住み慣れているやすらぎの郷で看取って欲しい」との声を、ご家族からいただいていたが、医療体制の在り方、看護・介護体制の在り方などにおいて、課題が多く実施には至っていませんでした。課題の解決にむけ、平成30年9月から「看取り検討委員会」を毎月開催し、他施設への研修や、職場内研修を積み重ね、令和となった昨年6月より正式に看取り介護を開始しました。

ほとんどの方が、口からの食事摂取が困難となられた方です。まずは、今後の方向性についてドクターおよび、ご家族と一緒にカンファレンスを開催し、誤嚥（および肺炎発症）のリスクの説明、胃瘻造設などの医療的対処も含め検討します。その上で、可能な範囲での、経口摂取を継続することを希望された場合は、看取り介護計画書を作成し、看取り介護が開始となります。食事形態や食事介助の方法など、ご本人の状況に応じた内容で対応し、入浴などの生活スタイルもこれまでと変わりません。少しずつ食事摂取量が減少される方もいらっしゃるが、どうか現状を維持される方もおられます。最終的に水分で口を潤す程度のケアとなると、週単位となり、言葉が適切に分かりませんが、多くの方が自然に枯れるように逝去されました。逝去後に、関係スタッフで看取り介護についての振り返りを行い、看取り介護の質の向上に努めています。

住み慣れたやすらぎの郷で、聞きなれたスタッフの声や、いつものにぎやかな音を聞きながら、不安感を少なく、できるだけ安楽に看取することを目的としていますが、看取らせていただく看護・介護スタッフも、この看取り介護により、多くのことを学ばせて頂いています。

### 基本理念

「人道、博愛、奉仕の赤十字精神にのっとり、地域に密着した温もりのある質の高い介護の実践に努めます」というやすらぎの郷の基本理念に基づき、利用者、ご家族が人生の最後をやすらぎの郷で過ごす事を望み、願っている場合において、看取り期が穏やかにやすらぎのある日々を過ごせるよう援助します。



# デイサービス



Day Service

## 文化祭 ～芸術・食欲・カラオケの秋を満喫～

### ケーキ

おやつバイキングは、ロールケーキやプリン、ぜんざいなど数種類をご用意しました。あれもこれもいいね～と迷いながら選ぶことも楽しみの一つです。



### カラオケ(藤原様)

のど自慢のHさんにステージで歌声を披露して頂きました。十八番の千昌夫「夕焼け雲」を熱唱！



### 作品展

- ・季節ごとにご利用者様と共に作りあげている壁面制作と、書道教室の作品を展示。
- ・指先のリハビリを兼ねて、趣味としても熱心に取り組まれている、Mさんの貼り絵作品がずらり！
- ・作品を鑑賞しながら歓談を楽しみます。



## 親睦会

一年の健康に感謝し、新年に向けて皆様と親睦を深めます。演芸にカラオケ、おたのしみ抽選会で大いに盛り上がりました。今年は12/25開催ということでクリスマスムードの会となりました。



### 演芸

スタッフによる演芸。コミカルな動きと衣裳で爆笑を誘います。

### おたのしみ抽選会

恒例となったクリスマス抽選会！  
いくつになってもプレゼントはうれしいですね。





# 第6回地域と老いを考える会

12月4日に、もっとクロス講座「第6回老いを考える会」を開催しました。今回のテーマは「認知症の方を守る後見人制度」「遺言作成、相続」。ブライストーン司法書士事務所の司法書士 明石智典先生に、大変分かりやすく、実際の事例の話も交えて講義をしていただきました。地域の方々と医療介護関係者を含め多くの方が参加され、受講後は、「後見制度や遺言作成などについて理解できました。大変役に立ちました」との感想をいただきました。

やすらぎの郷では、今後も地域の方々と一緒に「老いを考える会」を開催いたします。町の広報誌でも案内をいたしますので、皆様のご参加お待ちしております。



**成年後見制度について（意思表示の低下②）**

◆意思表示ができない、判断能力が低下するとどうなる？

- ・悪徳訪問販売に狙われたり、特殊詐欺にだまされる恐れがあります
- ・金融資産（定期預金、投資信託、株式、為替投資、生命保険等）の購入、解約が難しくなります

4ページ

**相続、遺言について（相続財産の争い②）**

意外と少額の相続財産でもめている？

裁判所における遺産分割調停申立の相続財産価格の割合

相続財産 **5000万円以下** が全体の**76.3%**を占めている

平成30年司法統計より

32ページ

## 地域の子供達との交流

昨年も多くの子供達との交流がありました。

**宇美小学校** .....▶

\*毎年、訪問している宇美小学校のみなさん「あやとり」や「おはじき」「お手玉など」などの昔の遊びで、デイサービスのご利用者と一緒に楽しい時間を過ごしました。



**宇美商業高等学校** .....▶

\*複数回訪問していただいた家庭クラブのみなさん 毎回、歌を披露したり、一緒にできるゲームで皆さんを楽しませてくれました。



**博多第2幼稚園** .....▶

\*子供の笑顔の威力は凄い。普段おとなしい方も最高の笑顔。中庭で遊ぶ子供達を見守るご利用者の背中に、深い愛情を感じました。



日本赤十字社福岡県支部  
特別養護老人ホーム



〒811-2208 福岡県粕屋郡志免町大字吉原600番 TEL.092-936-2022 FAX.092-936-2135  
ホームページ <http://yasuraginosato.org/cgi-bin/index.cgi>

令和2年1月発行